

2018年11月23日  
〈プレスリリース資料〉

「草の根・人間の安全保障無償資金協力」

サンパウロ州

「エンブ・グアス市サンタ・クララ初等教育学校改修計画」に係る  
草の根・人間の安全保障無償資金協力の供与式について

在サンパウロ日本国総領事館

11月14日(水)午前9時30分より、「エンブ・グアス市サンタ・クララ初等教育学校改修計画」に係るクルツーラ・フランシスカナ協会への我が国の草の根・人間の安全保障無償資金協力の供与式を行いました。式典には野口泰在サンパウロ日本国総領事、ナイル・デビナ・ロセット・クルツーラ・フランシスカナ協会理事長、エンブ・グアス市教育局長他約30人が出席しました。

会場: Associação Cultura Franciscana

住所: Avenida Central, 449, Parque Lagoa Rica, Embu Guaçu, SP, CEP: 06900-000.

電話番号: (11) 5054-4360

● 来賓の挨拶:

(野口泰総領事)

「今回、初めて学校を訪問してみて、これから20年、30年後のブラジル社会の担い手として育って行く子供たちの元気な笑顔を見てとても嬉しく思いました。日本は資源が少ない国なので、教育は非常に重要視されています。ブラジルの教育環境改善に貢献できて嬉しく思います。今年はブラジルの日本人移民110周年の記念の年でもあり、農業、医療、科学技術等の様々な分野で貢献してきた日系ブラジル人は今や190万人にのぼります。日系人がブラジルで様々な国の祖先を持つ人々と一緒に生活していることを大変嬉しく思います。」と祝辞を述べました。

(ナイル・デビナ・ロセット理事長)

「本日、サンタ・クララ初等教育学校は、日本政府に協力を頂いた施設改修が実現したことに大きな感謝の気持ちでいっぱいです。当校はこの地域のニーズとクルツーラ・フランシスカナ協会の使命を調和させて、教育を通じ、子供たちの共存、自立、共生、社会化とケアを目指して活動をしています。日本の資金協力によって現在通っている子供たちの安全面、衛生面での改善だけではなく、車椅子利用者の入学の道を開くことが期待されます。」旨述べました。

## ●案件の基本情報

案件名:エンブ・グアス市サンタ・クララ初等教育学校改修計画

被供与団体:クルツーラ・フランシスカナ協会

プロジェクト実施地:サンパウロ州エンブ・グアス市

契約書署名日:2018年3月23日

供与限度額:53,532米ドル

供与品目:校舎の床改修

## ●案件概要:

サンタ・クララ初等教育学校はクルツーラ・フランシスカナ協会が1984年に設立した学校であり、低所得者層の家庭の初等教育を主眼に運営されています。現在は6カ所の教育機関及び2カ所の学童保育施設を運営し、貧困者層地域に居住する317名の児童に対して教育を行っています。

学費を徴収しておらず、運営母体であるクルツーラ・フランシスカナ協会からの経費で賄われている同校は、設立当初の施設をそのまま使用してきたため、床タイルの摩耗など、児童の安全衛生、障がい者への配慮の観点から改修等を行う必要が出てきました。

今回の協力は、施設の改修に53,532ドルを限度に無償資金協力を行うもので、車椅子児童を安全に受け入れる事を可能とし、また、施設を利用している児童全ての安全衛生を向上させるものです。

(問合せ先) 在サンパウロ日本国総領事館経済班

(0xx11)3254-0100

## 【供与式典当日の様子】



(改修された校舎の床)



(式典中の児童の合唱)



(児童が作成した作品)



(学校関係者及び児童との記念写真)